

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100174		
法人名	医療法人社団和行会		
事業所名	洛和グループホーム大津若葉台		
所在地	滋賀県大津市若葉台30番25号		
自己評価作成日	平成27年	5月	28日
評価結果市町村受理日	平成27年9月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2590100174-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境のもとアットホームで、居心地の良い空間作りをしている。地域交流にも力をいれており、年4回グループホームだよりを発行、回覧板で地域のかたに見て頂いている。また月1回ふれあいサロンに参加、地域の夏祭り、お花見、敬老会に参加、GH主催の秋祭りにも地域の方に多く参加して頂き楽しみにしてもらっている。これを期にGHの消防訓練など参加して頂けるようにしていきたい。

開所して7月で8年目。利用者の介護度も差があり、外出も困難な利用者も多くなってきた。室内でも楽しみが持てるようボランティアの協力により、音楽療法やドッグセラピーも今年度から取り組んでいる。人員の問題などで必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは思いあい、助けあい、笑いあいと理念に謳い、日々の生活の中で笑顔を絶やさず利用者と職員が支え合い助け合えるような関係が築けるよう理念の実践に向けて取り組んでいます。利用者はありのままの自分を出せる環境にあり、職員と会話を楽しみながら穏やかな表情で過ごされています。ホーム近辺は坂道が多く散歩が困難な環境にあるにも関わらず、玄関先のベンチでお茶を飲んだり、地域の方の犬の散歩時に犬とふれあうなど、少しでも外気にふれる時間が持てるよう工夫をしています。地域の様々な行事に参加したり、車でのお出の機会も多く、買い物や桜の花見、紅葉狩り、初詣等にも出かけています。また、利用者や家族の希望を聞きながら個々の思いに沿った場所に出かけられるよう外出計画を立て、楽しみのある暮らしの実現に向けて個別の支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いあい 助けあい 笑いあい」という事業所理念を掲げ、利用者間・職員間・職員と利用者の関係・GHと家族間、GHと地域との関係の5つの関係性において、理念の実践できるよう取り組んでいます。	法人理念と開設当初に作成された事業所独自の理念を見やすい所に掲示し、法人理念については朝礼時に唱和を行うことによって常に意識しながら業務にあたるよう努めています。職員は日々利用者と職員が支え合い、助け合える関係が築けるよう努め職員会議等で振り返りや確認を行いながら理念の実践に向けて取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。 自治会に加入しており、地域の夏祭りやお花見、敬老会、月に一回ふれあいサロンにも参加しています。	自治会に加入し回覧板等で地域の情報を得て花見や夏祭りなどの行事に参加しています。地域の方の犬の散歩時には犬とふれあい、挨拶を交わしたり、近隣の方から花をもらうなど地域との関わりが深まっています。ホームの秋祭りには子供たちも含め多くの参加があり交流しています。ドックセラピーや話し相手、手作りの品を届けてもらうなどボランティアの来訪もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対して年4回、事業所の便りを発行、ふれあいサロンなどの交流により活かしている。 今年度はGH主催の秋祭りと連動し認知症サポーター講座を開催予定。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長にも参加していただき 如何にして地域交流を図り、地域の一員となってゆくにはも含め、話し合っている。	会議は地域包括支援センター職員と利用者、自治会長等の参加の下、2か月に1回開催しています。ホームの近況や行事等の報告を行い、参加者から地域の行事について知らせてもらったり、意見交換等を行っています。避難訓練時に地域からの参加を得られる為の相談を行い、アドバイスを受けています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市の認知症相談窓口事業に登録している。	運営推進会議議事録は地域包括支援センターに届け、役所からは研修の案内を受け法人の指示の下参加をしています。事故報告や通達等は法人の担当者が行っています。現場の運営上必要な時は連絡や相談をすることもあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロを目標としており、内部における研修もある。しかしながら左記の基準を職員全員が明確に理解出来ていないかもしれないものの、当たり前には守られる人権である事は理解できている。	身体拘束に関する法人研修を受講した者が、職員へ伝達し意識の向上とケアに繋げています。管理者は事例を挙げ利用者の立場に立って考えられるように指導しています。玄関は施錠せず、外に出たい時には職員が同行をしています。また、一人で出たい方には離れたところから見守りを行うなど閉塞感のない支援に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。			

洛和グループホーム大津若葉台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内にての研修もあり、参加し事業所で伝達研修もおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得出来る様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、直接的な言動の他、些細な変化からその思いをくみ取れる様努めている。 家族に対しては無記名の満足度調査を年1回実施。その意見に関してカンファレンスで話し合いをしている。	面会時や電話、メール等で意見や要望を聞いています。個人的な要望が多く、利用者間で会話をさせてほしいという要望を受け職員がコミュニケーションを取りやすく支援するなど工夫をし関係作りをするなど受けた意見は都度検討し改善に向けて取り組んでいます。また、年1回満足度調査を行っており結果は家族に報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しても、年1回の満足度調査を実施している。それ以外にも法人からのアンケート調査により、思いを伝えることは出来るようになっており、必要に応じて面談も行っている。	職員会議や申し送り時に意見や提案を出しています。日々の業務の中でも活発に意見を出し合い、ドッグセラピーについての提案があり実際に取り入れるなど、出された意見は検討しサービスの向上等に反映させています。また、年に2回の個人面談も相談や意見が出せる機会となっており、職員の様子を見て管理者が随時話を聞くようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	力量評価を行い、適切に職員自身を見極める様に努め、その能力に応じて職務を担当させている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の力量評価を行い、必要な研修においては内部、外部問わず受講を勧めている。 また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、研修や会議の場面においての交流が図れる様になっている。 外部では研修を通じての交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活やこれからの生活への望みなどをしっかりと受け止め、安心できるサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをしっかりと受け止め、本人の思いを受け止めるのと同様に、安心できるサービスの提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各家庭の事情もあり、利用に踏み切る理由は実に様々。サービスを利用しなければならないその原因を明確にすべく、面接の段階で話を聞くことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という状態ではあるが、なにより大切なのはその人らしさが尊重されることである。利用者と職員は、第一に人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、店への外出や故郷へのドライブや墓参りなどの支援を行っている。家族に対しても、これらを理解してもらえるようにその重要性を伝えるようにしている。	親戚等が面会に来た時は居室に通し、お茶を出すなど気兼ねなくゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。日々の会話の中から思いを汲み取り、馴染みの美容室やスーパーへの買い物、墓参り等希望に応じて職員が付き添い、今までの関係が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共に過ごす者同士、当たり前の関わりが出来る様、時に職員が介入しながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が病院に見舞いに行くこともある。力になれることがあれば、支援して行きたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中からその思いをくみ取るようにしている。	入居前の面談で本人や家族、ケアマネジャーから今までの暮らしや意向、身体状況、好みや趣味等を聞き取り、思いの把握に繋げています。入居後は日々の会話や様子などから知り得た情報をシートに記載し、職員間で共有すると共に意向の把握に努め本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにはセンター方式を使用し、必要な情報の集約に努めている。情報提供が受けられない場合などは、本人との係わりの中から察することが出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族からの情報により、これまでの自分らしさを把握し、現状については日々の様子やセンター方式等の情報も踏まえ把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはどのようにして生活したいか？と自然な会話の中で尋ねる様にしている。家族には、プラン実施後の結果を伝えたとともに、希望を聞いている。また、医療職等にはその都度助言を頂き、計画に活かしている。	利用者や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。6か月毎にカンファレンスの中でモニタリングを行い、状況に変化がなければ1年毎に見直しを行っています。見直しの際は再アセスメントとカンファレンスを開催し、振り返りノートに記載した内容も含めて職員間で話し合っています。事前に聞いた家族の意向や、医師や看護師からの医療情報も必要に応じて計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実行は記録に明記している。その記録やカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居により利用者がグループホームの生活に合わせるのではなく、今まで9人それぞれの生活があり個々のニーズにあわせ支援する必要がある。それぞれに合わせたくても制度や人員の基準等で必ずしも対応できないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるように、地域へはふれあいサロン、自治会の敬老会、夏祭りに参加し顔なじみになるようにしている。グループホームに来て頂くために秋祭りを開催し地域の方に呼びかけをしても共に支え合って生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、及び必要に応じて単発的な往診を受けている。急変時は24時間体制での支援が受けられるようになっている。	入居時にかかりつけ医が選択できる事を伝え、現在はほとんどの利用者が協力医の往診を2週間に1度受けています。受診支援は職員が行っていますが必要に応じて家族が同行することもあり、受診結果は電話や書面で報告しています。協力医とは24時間連絡可能となっており緊急時は指示を仰ぎ受診したり、往診に来てもらうこともあります。訪問看護師による健康管理や希望に応じて歯科往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師の訪問を受け、日常の健康管理を行ったり、健康上の相談が出来るようになっている。こちらも急変時など24時間体制での支援が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟の相談員と情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、CM、GH管理者などで話し合いの場を持ち早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人にて看取り指針があり同意を得ている。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。	入居時に看取り指針に基づいて説明を行っています。医療行為が常時必要になった場合は看れないことや家族の協力が必要であることも伝えていきます。重度化した場合は家族や医師、看護師、職員で話し合い、方針を共有し、家族と協力しながら看取り支援を行った経験もあります。また、管理者は医師や看護師に意見や助言を受けながら事業所独自で勉強会を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救命講習が開催され、全職員の受講を目標に今年度も取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な防災訓練を行い、年に2回は消防立会いのもとでの訓練を行っている。運営推進会議などで話し合っているが地域との協力体制を築くに至っていない。	消防署の立ち合いの下、年2回夜間想定で通報、避難誘導、消火器の使用方法等の訓練を実施しています。終了後に意見やアドバイスをもらい次回の訓練に繋げています。コンセント部分の埃の確認などの自主訓練も2か月に1回実施しています。実際の土砂災害時には後片付け等地域の方の協力を得ています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症である前に、一人の人間であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、その人らしさに配慮した対応を心掛けている。	法人の接遇マナー研修を受け、職員に伝達研修を行っています。新人職員にも研修を行い周知をしています。日々の言葉遣いは敬語を基本とし、声のトーンにも注意を払い、やさしい口調で声掛けすることの大切さを伝えています。不適切な対応が見られた場合は職員間で注意し合える関係づくりに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞き、信頼関係を築き自然に希望を表せるよう努めている。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望にそった支援を心掛けているが、業務に追われていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は共に服を選んだりおしゃれをしている。美容室には入居前からの馴染みの店に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材注文時は広告を見ながら一緒に考えたり、買い物に出かけメニューを共に考え、調理、味付け、盛り付けなど一緒に行っている。体調を見ながら食器洗いや食器拭きも一緒にしてもらっている。	献立は冷蔵庫の中にあるものなど、在庫の品を確認して利用者の希望を聞きながら、その都度立てています。食材の購入時は利用者と一緒に出かけ、品物を選んでもらうこともあります。調理や盛り付け、ゴマすりなど個々に応じてできることに携わってもらい職員と同じ食卓を囲み食事を摂っています。また、ホテルや料理屋での外食、バーベキュー、流しそうめん、手作りおやつなど食事が楽しみなものとなるよう様々なことに取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、その摂取量をチェックシートに記録している。 箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなどの支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力に応じて口腔ケアの支援している。 今年度も毎食後の口腔ケアを目標としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する方はもとより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレなど力に合わせた排泄介助を支援している。	トイレでの排泄を基本に、個々の排泄習慣やタイミングを図り声掛けや誘導を行っています。適切な支援を行うことによって紙パンツから布の下着に変更した方もあり、肌荒れが改善されたり、手引き歩行ができるようになり、日々の生活が意欲的になるなど自立に向けた支援となるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をこまめに促したり、食事では食物繊維の多いものを摂取する出来る様に努めている。 必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングで入浴できるよう努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ていない。コミュニケーションやタイミングを見計らい楽しく入浴できるよう努めている。無理強いはいしないようにしている。	入浴は週に2回を目途に午後から入ってもらい、希望に応じて毎日の入浴も可能となっています。夜間入浴はその時々状況に応じて希望があれば入ってもらえるよう検討していきたいと考えています。菖蒲やゆずなどの季節湯も実施し香りなどを楽しんでもらっています。また好み入浴剤や石鹸を使用したり、一番風呂など個々の希望に応じて対応しています。入浴を拒まれる時には職員を変更したり、散歩に出掛けた後にするなど工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況、習慣に合わせ声掛けをしたり、本人のペースに合わせ休息したり、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は全職員が必ず確認するようにしており、その理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること・出来ないことを把握し、出来ることは継続して行えるよう、出来ないことはどこまで出来るのかを見極めたうえで支援を行い、役割や楽しみが行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望にそった外出ができるよう支援しているが人員的な理由などにより、全ての希望に添えているとはいえない。年に1回は本人やご家族の希望に添い個別外出を計画、実施している。	散歩や車での買い物以外にも地域の行事に参加したり、桜の花見や紅葉狩り、初詣など季節毎の外出やホテルなどへ食事会に出かけることもあります。食事会には家族が参加されることもあります。時には玄関先のベンチでお茶を飲みながら外気浴をすることもあります。またあじさいの花見など希望に沿って個別支援にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、支援が必要な場合は対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については季節の飾り物や、花など生活感のある空間作りに努めている。利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量にも配慮するように心掛けている。	利用者と一緒に花を買いに出かけ花瓶に生けてもらったり、フラワーアレンジメントや利用者と一緒に作ったひまわりなどの季節毎の作品をリビングに飾り、季節感に配慮しています。換気や温湿度管理にも気を配り、利用者と一緒に毎日掃除を行うことで清潔保持に心がけ、快適な暮らしができるよう努めています。また、畳コーナーや共用空間にソファを置くなど思い思いの場所で寛いで過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務スペースの3人掛けソファは、気の合う利用者同士の語らいの場となっている。ハード面は限られているが、リビングでの席など、共有空間での居場所作りを大切に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家族の写真や花を飾ったり、使い慣れた家具や、大切なお仏壇など持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者はテーブルやいす、タンス、本棚など今までで使い慣れた家具を持ち込まれ、家族と相談しながら配置しています。入居後、生活機能や危険予防を考慮し、その都度配置換えを行っています。また、家族の写真や仏壇、小物入れなども側に置き安心して暮らせるよう配慮しています。居室は洋室ですが布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることの把握に努め、見極めをしながら居室等の表札や、トイレ・浴室内の手すりなどで少しでも自立した生活が送れるようにしている。		